

特定外来生物「オオキンケイギク」の防除にご協力ください

近年、焼津市内の道端や河原などで見かけるようになった『オオキンケイギク』は、アメリカ合衆国中部、南東部が原産で、毎年、5月から7月にかけて鮮やかな黄色の花をつけます。「wild flower」等の名称で、種子が輸入され、苗なども流通していましたが、繁殖力が強く、在来種を駆逐してしまう等の理由から、輸入・流通が規制されました。

現在、オオキンケイギクは、外来生物法により「特定外来生物」に指定されていて、栽培、運搬、販売、野外に放つことなどが禁止されている植物です。

オオキンケイギクかどうかの判断は、裏面の「環境省 特定外来生物同定マニュアル(植物)」を参考にしてください。家庭内や畑に植えている場合は、飛散しないように注意し、処分をお願いします。

また、環境美化活動等の作業の際に見かけた場合は、下記処分方法を参考に処分をお願いいたします。



【罰則規定】

栽培や運搬、野外に放つことが法律により原則禁止されており、違反すると個人の場合、最大で300万円の罰金もしくは3年以下の懲役、法人の場合、最大で1億円の罰金が科されます。

その場で 枯らせる場合

- 1 根から引き抜く**

根元から株ごと引き抜きましょう。多年草なので、根が残るとまた生えてきます。
- 2 袋に入れて枯らせる**

種子や根を落とさないように袋を密閉して、枯らしてください。
- 3 燃えるごみとして出す**

自治体のごみ処理方法にしたがって処理してください。

駆除するときに気をつけること

種子を落とさない

種子は土中で何年も生き残る
地面に落とさないようにしましょう。種子をつける前の花の咲き始めまでに駆除するのが一番良いです。

継続的に駆除する

根絶には時間がかかります
駆除した後も根や種子が残っているので、翌年も生えてきます。毎年根気よく続けることが効果的です。

参考：九州地方環境事務所ホームページ チラシ「みんなで駆除しようオオキンケイギク」より抜粋

【問合せ】焼津市役所 環境課 環境政策担当

TEL 054-626-2153

オオキンケイギク（学名：*Coreopsis lanceolata*）

【分類】双子葉植物 合弁花類 キク科 ハルシャギク属（＝コレオプシス属）

【本種と近縁な未判定外来生物】なし

【本種を含む種類名証明書添付生物】ハルシャギク属の全種

【その他の学名】*C. crassifolia*、*C. heterogyna*

【外国名】Lance-leaved tickseed

【別名・販売名】コレオプシス（ハルシャギク属の総称）

【輸入・流通形態】「wild flower」等の名称で種子が輸入される他、苗が流通していたが、現在は外来生物法により輸入や流通は規制されている。

【原産地と侵入地】アメリカ合衆国中部、南東部（ミシガン州～フロリダ州、ニューメキシコ州）原産である。オーストラリアでは侵略的な外来種の一つとされている。日本では全国に分布する。

【形態的特徴】

花：開花期は5～7月（写真1）。他のキク科植物と同様、小さな花（舌状花*と管状花*）が多数集まって直径5～7cmの頭状花*を形成している（写真2）。舌状花*は黄橙色で、花びらの先は不規則に4～5つに分かれる。管状花*も同様の色（写真3）。頭状花*のまわりは二重になった総苞片*に取り囲まれている（写真4）。



写真1 満開のオオキンケイギク
(2008. 6. 1/長野県下伊那郡天竜川)



写真2 オオキンケイギクの頭状花
(2008. 6. 1/長野県下伊那郡天竜川)



写真3 オオキンケイギクの管状花
(2009. 6. 28/山梨県北杜市)



写真4 花びらが散った後の頭状花の外側を包む総苞片
(2008. 6. 7/岐阜県各務原アウトドアフィールド)